

浜松観光ボランティアガイドの会

西部地区観光ボランティアガイド連絡協議会研修会を開催



講演会風景

11月16日（木）に表記の研修会が当会の当番ということで、約半年前から準備を始めました。小池副会長を中心とし、執行部、事務局、午後の見学会の④街中ちょい旅コースは家康プロジェクトチーム、⑤家康の散歩道コースは研修部員が担当しました。当日の参加団体〔敬称略〕は掛川5名、高天神2名、森町5名、天竜3名、細江3名、三ヶ日2名でした。

9時半から受け付け開始、10時から鈴木会長が開会の挨拶をし、連絡協議会会長の天竜ふるさとガイドの会会長の今村様よりお言葉をいただきました。続いて浜松市文化財課和田達也氏から『浜松の魅力』という演題で講演していただきました。2005年に12町村合併により東西50km南北70kmとなり全国で二番目に広く、また湖・平野・一級河川があることで日本の縮図という話から始まり、文化財見地から銅鐸、古墳、ひよんどりや田楽などの郷土芸能、戦国時代の城跡、古戦場や秋葉信仰と多方面にわたって文化財なるものが1,000件を超えているということです。特に引き付けられた話は浜松城の立地場所が、秋葉街道、姫街道、東海道、雄踏街道の交わる交通の要衝で台地の縁ということです。あっという間に時間が過ぎて講演会が終了し、昼食後は午後の部の見学会です。

広報部 柳本幸子（中ブロック）

④街中ちょい旅コースは、浜松の発展の歴史と城下町浜松を知ったり感じたりしてもらうことを目的とし、浜松城展望階まで案内をしました。

浜松駅周辺では文化都市浜松創造の様子。鍛冶町通りでは江戸時代の職人町に始まり、東海道線開業時からの老舗菓子店をはじめ浜松を代表する楽器店など、商店街の変遷。肴町では往時の香りと老舗の伝統を守り続ける努力。最後は、幕府と將軍家の威信を示した五社・諏訪神社などを案内しました。参加者からは、「肴町は歩いてみると昔からの乾物屋などが残っていて、江戸時代の町並みが目に浮かんだ」「五社・諏訪神社が戦争で焼失したのは残念だが、本殿や戦前の写真を見て、日光東照宮や久能山東照宮に匹敵する荘厳な建物だったことが分った」「子どものころの浜松の街の様子がよみがえってきた。」などの声が聞かれました。



宿場町浜松を紹介

広報部 馬淵 豊（南ブロック）

⑤家康の散歩道コースは、浜松城公園を徒歩で出発し普濟寺、西来院、犀ヶ崖古戦場、本多忠真碑、夏目吉信碑を巡って出発点に戻ります。参加メンバーは掛川、細江、高天神、森町、浜松です。城内での石垣や鉄門あたりで質疑応答が活発、さすが観光ガイドの皆さんです。また動物園の象に会いに来たとか子ども時代に遡った話題で盛り上がりました。森町のガイドさんグループに尋ねたところ、森はお茶所です！石松の生まれ在所とは今は強調しませんと皆さん口を合わせて言っていました。



西来院にてお墓の説明

30年前に、森山焼の花瓶やコーヒーカップを窯元まで出向き購入した話をしたら、ぜひとも森町まで足を運んでいただきたいと言っていました。活動場所を訪ねると、小國神社、天宮神社、そして戦国夢街道などということでした。犀ヶ崖に向かう途中、西部協働センター横の高柳健次郎氏のテレビジョン発明モニュメント【イ】の字に気づいた人がいたので、静岡大学工学部の前身である浜松高等工業学校がこの地にあり、発明した場所であることを説明しました。時計をみると予定時間が過ぎていることを知り、夏目吉信の碑まで行き、あとの二カ所は省略して駐車場に急ぎました。

広報部 柳本幸子（中ブロック）

現地研修・うちの古墳群を歩こう

11月21日(火)に研修部主催の浜北区の内野台にあるうちの古墳群を歩きながら巡る研修がありました。当会の参加者は59名と案内して下さる遠州山辺の道の会が15名と大所帯となりました。



遠州山辺の道の会のガイドさんと

は山の神古墳と稲荷山古墳を巡りました。



遠州山辺の道の会事務局の酒出さんによる解説

染地台の野鳥公園集合同所で3班に分かれて出発しました。

最初が一番古い内野上1号墳の県指定史跡の赤門上古墳です。ここは南に突き出た丘陵の先端部分にあり、前方後円墳で全長56m、高さ5mと市内でも最大級だそうです。その埋葬施設から『三角縁神獣鏡』と呼ばれる銅鏡などが出土されました。そのレプリカですが見せていただきました。次



三角縁神獣鏡のレプリカ

の道の会のガイドさんの説明では古墳時代によって古墳の大きさが大～小になるということです。それから県指定史跡二本ヶ谷積石塚群です。ここは構造が朝鮮半島の積石塚と似ており渡来人の墓ではないかと言われています。

この古墳群で出土遺物は浜北文化センター内の市民ミュージアム浜北に展示してあるので興味のある方は出掛けてみましょう。

広報部 柳本幸子 (中ブロック)

伊万里市より浜松市へ「鍋島」献上の儀



袴姿の伊万里鍋島焼協同組合の皆さん

11月21日(火)、浜松市役所において、浜松市長へ伊万里市長を当主とする伊万里鍋島焼協同組合から、「鍋島*」献上の儀が実施されました。

その後、浜松城を見学。袴姿の7名をはじめとする伊万里市の関係者20名と浜松市職員総勢30名ほどが、当会の鈴木会長・大見副会長の話に耳を傾けました。

献上品の色
鍋島青海波 橘
文瓶子は浜松
城天守2階の
ショーケース
内で美しく輝



浜松城に展示された鍋島

西ブロック 横田みゆき

いています。

*注釈：「鍋島」(鍋島焼)

17世紀から19世紀にかけて、佐賀鍋島藩の藩直営の窯で製造された高級磁器。その伝統や技法を後世に伝えていくために、伝統産業振興の一環として平成元年から毎年鍋島の献上を行っている。



見徳古墳外観 都田町

11月1日(水)に浜松博物館にて東ブロックのミニ研修会が17名と他のブロックの8名の25名の参加者で開講されました。講師の鈴木京太郎さんには昨年は旧石器時代(浜北原人)から縄文時代(蜷塚遺跡)弥生時代(伊場遺跡)を勉強しましたので、今年はその続きとして古墳時代の話をお願いしました。11月21日の当会の現地研修会のテーマは(遠州山辺うちの古墳群を巡ろう)ですので予習になるのではないかと思います。しかも鈴木京太郎さんは浜北市役所に勤めていたころにリーフレット「うちの古墳めぐり」を作ったそうです。古墳時代は西暦250年~600年ごろです。浜松の古墳は三方ヶ原台地の東側に多くが見られます。これは笠井、豊町あたりに権力者が居たのでは。埋葬方法としては(竪穴式)と(横穴式)があります。前者の方が古く、埋葬者も一人だけです。後者は何人か埋葬されています。古墳の形は前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがあります。また都田川沿いにも多くあります。奈良時代になると国府、国分寺ができる磐田原には浜松よりも多くの古墳があります。そのころは磐田の方が賑わっていたのでしょうか。天竜区山東にある光明山古墳(全長82m・後円部長径46m・高さ7.5m・前方部高さ8m)は県下最大の前方後円墳です。ところが天竜川の右岸にあるので埋葬者は磐田の権力者ではないかと想像します。

石室の石は浜名湖館山寺辺りの石が使われている。浜松城の石垣の石と産地が重なるのではないかと。

前方後円墳の北限は岩手県、円墳等は青森県だそうです。現在浜松で外観や石室を見ることが出来る古墳は18カ所あります。



見徳古墳石室 都田町

広報部 阿形守康 (東ブロック)



浜松秋葉神社にて

11月27日(月)に中ブロック12名、西ブロック12名、計24名にて交流ミニ研修会が行われました。今回は「徳川家康家臣団屋敷跡巡り」と題していつもとは違った視点から、浜松城周辺の街歩きをしました。

浜松城公園のせせらぎの池からスタート、浜松城築城期の地図と見合わせながらホテルコンコルド浜松の南側の旧奥山線路跡に沿って西へ進むと、ここがかつてお堀であったことに改めて気付かされます。最初に旧鹿谷テニスコート跡の南口付近にある「近藤石見守康用」屋敷跡、そこから鹿谷郵便局近くの「酒井正親」屋敷跡と巡って行きました。また、歴史を熟知されてるメンバーと一緒にということもあり、様々な小話が研修途中で飛び交いました。例えば

浜松中部学園の一画には、かつては火薬庫か処刑場があったとの説が紹介され、どちらを押しかで、問答がはじまります。普通に処刑場だったりすると、城近くに「首」をさらしたりするだろうかなど、想像をかき立たされる側としては、生々しい話でした。

鹿谷町は名の通り、かつては鹿が見られる山の中の土地で、高町までいくと、教会があり対面に浜松城が見えます。ここには「榊原小平太康政」屋敷跡がありましたが、殿様より高い土地に家臣が住むだろうかという議論が、また始まりました。

次に訪れた「浜松秋葉神社」は「山家三方衆」の屋敷跡であり、浜松城の裏鬼門になります。ここでも隠れキリシタンのものではないかとされる手水鉢を囲んで話が盛り上がりました。

清水坂はかつて湧き水があり、三方原の戦いで逃れてきた家康公が「喉がかわいた」と水を飲んだことから「清水坂」となったとか。

家康家臣団屋敷巡りのはずでしたが、ちょっとした話題の方が実は面白く感じた研修でした。

広報部 久保田絢子 (中ブロック)

犀ヶ崖古戦場 来場者最多を記録

JR 東海さわやかウォーキングどこ行く家康コース・浜松編が10月14日(土)に開催され、薄曇りではありましたが、また、朝夕は秋、日中はまだまだ夏を感じる中、ご夫婦、グループ、そして単独で来られる方々が公園内、館内にあふれ、当番の北ブロック、飯塚、古橋さんは対応におおわらわでした。館内での説明、公園内の本多忠真碑、少し離れた夏目吉信碑、物見台への案内、そして新しく建てられた「平和の祈りを込めて」の記念碑の前での撮影のお手伝い等、休みなく動いている中、NHK 大河「どうぶの家康」の前半のクライマックス「三方原の戦い」で夏目吉信を見事に演じた甲本雅裕さんがスタッフと共に現れました。騒然とした雰囲気にも包み込まれた中で、記念碑の前後で撮影のポーズをとられていました。「この碑は期間限定ですか」と尋ねられ「永久ですよ」の声にニッコリされる場面を後にしてドラマ館へ向かわれました。

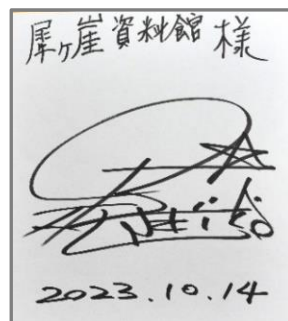


夏目吉信を演じた甲本雅裕さん

午後3時過ぎに「関ヶ原の戦い」の前哨戦とされる「伏見城の戦い」でわずか2300人の手勢で籠城し、4万人もの大軍を10日間足止めし、討ち死にした三河武士の鑑といわれる鳥居元忠の子孫で、鳥居家第16代当主鳥居忠明様率いる10名のグループが来館され、徳川十六神将の掛け軸と家康公を援護しようと槍を持つ鳥居彦左衛門(元忠)が描かれている錦絵を鑑賞されました。

事前に問い合わせがありました「鳥居家にまつわる御位牌」は当資料館では保管していない旨お伝えいたしました。御一行はこの後、三方原の戦いで討ち死にした鳥居家ゆかりの蓮華寺へ向かうとの事でした。

当番のお二人と私も含めて大奮闘の一日でした。当日の JR 東海さわやかウォーキングの参加者は1684名、また、資料館への入館者2081名は新記録でした。「お疲れ様！」



資料館部長 織田昌明 (中ブロック)

11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

21日 火 佐賀県伊万里市一行(鍋島焼協同組合) 30名

《出前講座》

21日 火 浜松市立東小学校 53名

《同行ガイド》

14日 火 浜松市立城北小学校 82名

《犀ヶ崖資料館》

7日 火 名古屋緑鯰城会同好会 17名

9日 木 浜松市立富塚小学校 6名

26日 日 美浜ふるさと研究会 23名

《浜松まつり会館》

2日 木 浜松市立浜松中部学園 90名

3日 金 さいとう医院 14名

みのり大学 39名

5日 日 全建愛知北支部 56名

三越伊勢丹ニッコウトラベルの会 11名

6日 月 浜松市立入野小学校 84名

7日 火 浜松市立相生小学校 94名

15日 水 名古屋市立南養護学校 33名

20日 月 すてき旅 32名

28日 火 浜松市立南の星小学校 47名

はままつ案内人会報 257号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地